

プロフェッショナル

この人に注目

好きだから
ベストを尽くす
好きだから、
変えない

シイタケ生産者 上谷 はじめ 春

日野町久住、
深い山の中を進むと
見えてくる無数のホダ木。
加えて、
樹齢百年を超え、
先祖代々を見守ってきた
ヒノキが出迎える。

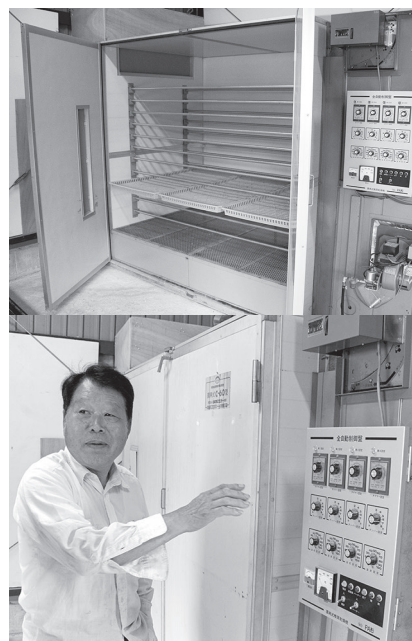
ここで日本一の乾シイタケが
できたのだと思うと
“ズゴい”の一言がもれる。

担い手不足、
若者のシイタケ離れ…
取り巻く環境は厳しくとも
貫いてきた信念—。
若いころに抱いたあこがれが
情熱に変わり、
いつかの夢をかなえた。

あらためて、“ズゴい”の一言。
夢をかなえるのに必要なのは？
人口減少、少子高齢化の進む
このまちに希望の光…
いや、“日本一”を生やした
彼に聞いてみた。



森の中、整然と並べられたホダ木。周りの長く太く成長したスギやヒノキが歴史の長さを物語る



▲収穫したシイタケを乾燥させる大型乾燥機。上谷さんの長年の経験や勘により、シイタケを置く場所や乾燥時間などがその都度変えられるという



次の収穫に向けホダ木の手入れも重要に



▲旨味と香りが凝縮された乾シイタケ
▶今年は県内から農林水産大臣賞受賞者が2人も！



念願だった大臣賞受賞。
日野町から初の日本一に

全国の乾シイタケ生産者の技術の研さんと生産意欲の高揚を目的に、6月13日に開かれた第52回全農乾椎茸品評会。上谷春さん（久住）は、品評会の中葉中肉の部で、日本一にあたる農林水産大臣賞を受賞しました。

「念願だった大臣賞を初めて受賞できました。今年は、暖冬の影響や雨が少なかったからか、生育が遅く、例年の7〜8割程度の生産量でしたが、丁寧に栽培したおかげだと思っています」

あこがれがいつしか
夢や目標に。私の原動力

念願だった日本一。ただ、これまでの道のりは決して平坦ではなかったはず。ここまでやってこれた理由を尋ねてみると――

「シイタケ栽培を始めたころ、ものすごくきれいなシイタケを作る生産者がいたんです。私もいつかそうなりたいたいと思い40年近くやってきました。そうしているうちに、シイタケ栽培にハマり、最高の名誉である大臣賞を受賞したいという目標もできました」

あこがれが情熱に変わり、夢や目標への原動力に。そんな上谷さんのシイタケ

栽培でのこだわりとは。

「ほかの品種の菌が混ざり合わないよう、品種を一つにしぼるという冒険もしました。でも、最も大切なのは、ホダ木作りから植菌、収穫まで基本に忠実に、丁寧に栽培すること。子どもを育てるような感じでしょうか。愛情を注いだ分、シイタケは応えてくれるものです」

変わらぬ平常心
技術や経験を若い世代へ

近年、若者のシイタケ離れなどが叫ばれる中、町内ではさまざまなことに挑戦する若い世代の生産者の姿がみられるようになってきました。

「ぜひ、若いうちにいろいろな挑戦や経験を積んでほしいですね。ただ、一人でやるには限界があります。今のうちに仲間をつくったり、家族で役割分担を決めたり、しっかり基盤を固めておくことも大切だと思います」

上谷さんも通ってきた道ですね。担い手は着実に育ってきています。

「私はいつもベストを尽くすことを心がけています。それは、賞を取った今でも変わりません。やり続ければ結果はついてくる。そうした経験や技術をこれから世代に伝えていきたいですね」